



無人ヘリ防除が可能となりました。
冬の安眠まもりです。

小麦の雪腐病殺菌剤

「モンカットベフランフロアブル」

■日本農機株式会社

モンカットベフランフロアブルは、2008年に登録を取得した新規の雪腐病殺菌剤です。小麦の紅色雪腐病、雪腐小粒菌病の防除剤として既に使用いただきたくております。本剤ではモンカットベフランフロアブル以下本剤の特性や、登録域拡大情報、無人ヘリ散布などについて紹介いたします。

本剤の特長について

1. 抗菌スペクトラム
本剤はモンカットベフランフロアブルの混合剤です。モンカットベフランフロアブルはトリブタクトニア系担子菌類に特異的に作用する薬剤で、雪腐小粒菌病に対して高い効果を示します。

一方フロンイートラックス酸塩は抗菌スペクトラムが広く各種病害に有効であり、紅色雪腐病に対し高い保護殺菌効果を示します。したがって本剤はこれらの雪腐病を同時に防除できる省労力な薬剤として、いずれの薬剤もこれまで特許面の報告はありません。

2. 薬剤

本剤はフロアブル製剤です。調剤が簡単です。微粒子化および製剤の工夫により、雪腐病に安定した効果を得ます。製剤の有效期間は3年です。安定性が高いので保管中の分解は起こりません。

登録域拡大について

2009年7月に無人ヘリ散布の登録を取得しました(表2、図1)。これまでよりもさらにお使いやすくなりました。今後は少量散布や雪腐大粒菌病にも登録を拡大すべく、現在委託試験を実施しております。

雪腐病の防除について

麦類の雪腐病防除効果は、散布が根雪開始に遅いほど低下します。根雪開始を予測することは難しくありますが、時期を逸しないように散布します。小麦が穂熟後状態の場合は、水量を規定の範囲内で本剤は10ℓ/内り00～1000ℓ/haを参考に十分散布します。雪腐病の発生を促進するおぼえに、運作を続ける。適期に播種して、発病を低くする。深耕や窒素過多を避ける。などの耕種防除方法も有効とされています。

前年、発病がなかったからといって、感染源が完全になくなっている訳ではありません。耕種防除、薬剤防除をうまく組み合わせていくことが、対策する上で大切なことです。

おわりに
モンカットベフランフロアブルは、小麦の安定生産のお手伝いをいたします。
水水へご利用いただきますようお願い申し上げます。
(2009年8月25日)



表1. 抗菌スペクトラム

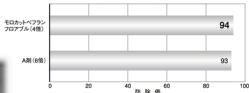
剤名	病名	雪腐小粒菌病			雪腐大粒菌病
		紅色雪腐病	黒色小粒菌病	褐色小粒菌病	
モンカット		×		○	×
ベフラン		○	×	×	○
モンカットベフラン		○	○	○	○

○：選性が低い ○：選性がある ×：選性が高い

表2. 適用病害と使用方法 (2009年7月22日現在)

作物名	適用病害名	希釈倍率	使用濃度 (ℓ/10a)	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクタンを含む農薬の 前後使用回数	フルトラニルを含む農薬の 前後使用回数
小麦	紅色雪腐病	500倍	60～150 リットル	播種前	2回以内	散布	4回以内 (種子への処理は1回以内、散布 及び無人ヘリ散布は計2回以内、 出穂前1回は1回以内)	2回以内
	雪腐小粒菌病	4倍	800ml			無人 ヘリ散布 (による散布)		

図1. 無人ヘリ散布による紅色雪腐病防除効果



■ 紅色雪腐病
● 北海道植物防疫協会
＜試験結果＞
場所：北海道植物防疫協会（北海道夕張郡由仁町）
発主：秋田・青森
品種：ホクレン
播種：平成18年8月26日
処理：平成18年11月20日
収穫開始：平成18年11月25日
調査開始：平成19年3月24日
調査：平成19年4月2日

